

# 道具の足跡

生活工芸の地図を広げて

瀬戸内生活工芸祭実行委員会編



ISBN987-4-87758-714-7  
¥1,900 (税別) A5正寸(タテ  
210×ヨコ148)、112ページ

「道具の足跡」をたどり、

ものが語る言葉に耳を澄ます。

手仕事のこと。

機械生産品のこと。

家の中に残されたかわいい足跡のこと。

ちよつと哲学みたいなこと。

生活道具が出かけた先は、意外に広がった。

道具が旅した世界、その小さな物語に、

耳を傾けていただければと思う。

(本書より)



巻頭エッセイ  
「風」 川上弘美

インタビュ―

深澤直人 (プロダクト・デザイナー)

民藝と工芸とデザインを平らかにする

堀井和子 (スタイリスト)

皆川明 (テキスタイル・デザイナー)

大西静二 (インダストリアル・デザイナー)

生活工芸 五つのかたち

- 一 孤独な石、もしくは器 赤木明登―黒漆汁椀
- 二 使いたくなる皿 安藤雅信―切込高坏皿
- 三 何でもない器 内田鋼一―白磁飯碗
- 四 普通のコップ 辻和美―普通のコップ
- 五 暮らしの中の木の道具 三谷龍二―木地盆

フォトクリップ

「生活工芸」の町 高松を訪ねて

インタビュ―〈桜製作所〉永見眞一会長に聞く  
高松に芽吹いたものづくりの心と  
〈桜製作所〉の歩み

鼎談

「生活思想の地図を広げて」

三谷龍二 (木工デザイナー)

鞍田崇 (哲学者)

石倉敏明 (人類学者/神話学者)

「生活工芸」を考えるブックリスト

作る人にも、使う人にもある道具をめぐる数々の「物語」